

親のかかわり方

- 毎年、中3生全員に、「やる気」に関するアンケートをとっています。
そのうち、「親から言われて、やる気がなくなった言葉や行動は？」という質問に対する回答のベスト3は、毎年だいたい決まっています。
 - 第1位 「早くしなさい」
 - 第2位 「勉強しなさい」
 - 第3位 「〇〇しちゃダメ」つまり、「命令」と「禁止」が、子どものやる気を失わせるのですね。
一方、「親から言われて、やる気になった言葉は？」という質問に対しては、
 - 「お母さん、あなたがしっかりしていて助かるわ」
 - 「後片づけ、きちんとやってくれてありがとう」という回答が挙がってきます。人から頼りにされるとか、人の役に立っているという実感があることは、子どもにとっても誇らしいことなのでしょう。ですから、お子さんに何かをしてもらいたいとき、「命令」するより「お願い」するほうが、ずっと行動につながるはず。この「役立ち感」を家庭で感じてもらうことができる最も手軽なことがお手伝い。 (中略) ここで大事なことは、役に立つことをしてくれたときは、それがどんなに小さな事でも、感謝の言葉を口に出すこと。家族間ではこれを忘れがちです。反対に、せっかくのお手伝いを台無しにするのは、「今日は、どういう風の吹き回し」という言い方。こんなときは、「今日も、手伝ってくれて助かるわ。ありがとう」と言いましょ。継続してほしいときは、「は」ではなく「も」が大事です。pp. 46-47
- 前述したアンケートでも、「やる気になった親の言動は？」という質問の回答として、
 - 「大変そうだね。一緒にやろうか」(→伴走)
 - 「(疲れたところに) お茶をいれようか？」(→見守り)
 - 「いつもがんばっているね」(→承認)といったものが挙がってきます。なかでも、「伴走」が第1位です。p. 52
- 受験を終えた生徒が、「受験期に、親にしてもらってよかった」と言っていたことがふたつあります。それは、「気持ちのフォロー」と「生活リズムのフォロー」です。この時期は、どうしても落ち込んだり、不安になったりしがちです。それを無理に「どうしたの？何かあったの？言ってみなさい」と迫ったり、「がんばれ。大丈夫だ」とやたらに励ましたりするのではなく、子どもが必要とするときにだけ手を貸し、あとは見守るという態度を子どもたちは望んでいます。これが気持ちのフォローです。もうひとつの「生活リズムのフォロー」とは、生活環境を整えることです。ここで知っておいてほしいのは「3点固定の法則」です。3点とは、起床の時間、夕食の時間、就寝の時間のこと。この3つの時間が、毎日固定されていると、生活にリズムが生まれ、勉強をする時間が確保しやすくなります。p. 85

『伸びる子の育て方』品川女子学院校長漆紫穂子著（ダイヤモンド社）より